

東京農業大学大学院の名称及び教育研究上の目的

博士前期課程・修士課程

<農学研究科>

本大学院農学研究科博士前期課程は、国内外の農学諸分野におけるフロンティアとして、見識と実力、さらに健全で調和のとれた人間性を有する研究者および高度専門技術者の人材育成を目指し、実学主義教育のもと論理的思考力と問題解決能力の獲得および向上を図り、生物資源、生命科学、環境科学、健康科学ならびに経営・経済分野の教育・研究を行うことを目的とする。

<農学専攻>

農学専攻博士前期課程は、環境の保全・保護を図りつつ、安全で高品質な農作物を安定的に生産・流通させる技術の確立を目指し、農作物およびそれにかかわる微生物や昆虫類に関する専門的な学理を実学的な視点から教育・研究することにより、卓越した発想および問題解決の能力と強い使命感を持って次代を担う専門技術者、教育者、研究者などの人材を養成することを目的とする。

<畜産学専攻>

畜産学専攻博士前期課程は、動物科学について、生体から分子まで様々なレベルで教育と研究を実践する。畜産関連の幅広い分野で様々な課題に対応できる、高度な知識と技術を合わせ持つ人材を養成することを目的とする。

<バイオセラピー学専攻>

バイオセラピー学専攻博士前期課程は、人の生活と自然環境の保全と保護が調和する社会の構築を目指す「環境農学」および動植物の利活用によって人の生活の質や心身の健康の向上と改善を目指す「福祉農学」の視点に立った教育研究を展開する。これら教育研究の目的のもと高度な専門知識と技術を修得することで、持続的な社会のあり方を提言できる豊かな感性と問題解決能力を有し、社会の現場で実務的役割を果たす知的リーダーとなる人材を養成する。

<バイオサイエンス専攻>

バイオサイエンス専攻博士前期課程は、生命科学の最先端知識・技術の修得を通して、創造的・独創的な教育研究を推進し、研究内容を自在に発信・討論できる能力を養成する。それにより、優れた人間性を有し、国内外の研究・産業の発展に貢献する人材の養成を目的とする。

＜農芸化学専攻＞

農芸化学専攻博士前期課程は、実学主義の理念を基に、人類の生活に関わる課題を食料、環境、健康の観点から農芸化学的アプローチにより解決することを研究目的としている。これら研究課題に対して、基礎・応用の両面から研究遂行能力を修得できる教育研究体制のもと、科学的解析能力、論理的展開能力を備えた人材の養成を目的とする。

＜醸造学専攻＞

醸造学専攻博士前期課程は、わが国独自の醸造技術や発酵食品の科学的探求および次世代の微生物利用産業の発展に寄与する人材の輩出を理念とし、基礎科学知識に精通し微生物学・化学・生物工学に関する研究能力を有する人材ならびに高度な発酵技術を有する研究者や専門職業人となる人材の養成を目的とする。

＜食品栄養学専攻＞

食品栄養学専攻博士前期課程は、ヒトの生涯にわたる健康の維持・増進および疾病の予防・改善に向けた食の機能性の利用や、栄養管理などの高度で専門的な研究を行い、さらに食品学および栄養学領域において、豊富な専門的知識・技術と研究能力を持った研究・行政・教育・医療分野などで指導的立場を担える高度な専門家となる人材の育成を目的とする。

＜林学専攻＞

林学専攻博士前期課程は、地域から地球的規模にいたる森林・林業・林産業・農山村に関する高度な知識と理解力や、森林の資源生産的機能と環境保全的機能に関する総合的で高度な研究能力と管理能力を持ち、森林の保全とその多面的機能の高度利用、生物多様性の保全、循環型社会の形成に関する問題設定・解決能力を備えた人材の養成を目的とする。

＜農業工学専攻＞

農業工学専攻博士前期課程は、環境に配慮した地域資源の有効利用と循環型社会の構築を理念とし、これらを技術的に具現するために農業土木および農業機械分野の学問を基軸とした実践的な教育研究を行い、国内のみならず海外の現場での技術開発・問題解決と学術的な研究を両立できる能力を持った人材の養成を目的とする。

＜造園学専攻＞

造園学専攻博士前期課程は、庭園・公園などの基本的造園空間に加え、都市から自然地域までの快適な環境を実現するための計画・デザイン思想と技術力、環境を構成する植物をはじめとした生物資源や景観計画・建設技術に関する知識と応用能力を高め、教育研究活動を通じて、豊か

な地域社会と社会資本の形成に貢献する人材の養成を目的とする。

＜国際農業開発学専攻＞

国際農業開発学専攻博士前期課程は、自然科学および社会科学にわたる広範な学問領域を統合する総合的アプローチにより、農業開発や国際協力にかかわる問題の解決を図るための論理的な思考力と実践力を持つとともに、異なる文化や習慣を尊重した活動を展開できる人材を育成することを教育目標とする。

＜農業経済学専攻＞

農業経済学専攻博士前期課程は、農業および食料、環境の諸分野において、経済・経営・社会・地理・歴史等の社会科学の多面的な知識を持ち、変化する社会・経済情勢に的確に対応のできる分析能力を有する高度専門職業人の養成を目的とする。

＜国際バイオビジネス学専攻＞

国際バイオビジネス学専攻博士前期課程では、人類の生存に最も重要な食・農・環境にかかわるビジネス（バイオビジネス）を対象とし、国際化や技術革新、消費者志向の多様化などの変化に直面しているビジネスの実態を主として経営学の手法で分析するとともに、修得した専門知識と言語能力によってバイオビジネスの経営展開を牽引するビジネスリーダーや理論構築を志向する研究者など、バイオビジネスの持続的発展に寄与する人材の養成を目的とする。

＜食品安全健康学専攻＞

食品安全健康学専攻修士課程は、「食品の安全性」と「食品の機能性」とを統合した学問領域を科学するため、農学を基盤とした生命科学の教育研究を展開することにより、難度の高い問題に対する解決力を備えた、食品関連の技術者・研究者・行政官となり得る人材の養成を目的とする。

＜生物産業学研究科＞

本大学院生物産業学研究科博士前期課程は、幅広い学問領域の知識を備え、高度な専門知識と能力および創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ人材の育成を目指し、生物産業学に関する実学の精神と文理融合の教育体系に基づき、北方圏の地域性を活用した農林水産に関わる生物資源、バイオテクノロジー、経営経済分野の教育・研究を行うことを目的とする。

＜生物生産学専攻＞

生物生産学専攻博士前期課程は、農学、林学、畜産学に自然生態学カテゴリーを加え生物多様性の保全を含めた生物生産に係わる資源開発、環境共生等について高度に研究・教育する。その理念の基に資源利用・開発、エコロジー、バイオテクノロジー等の観点から様々な課題を取り上げ、その専門性の高い指導的役割を果たせる人材の養成を目的とする。

＜アクアバイオ学専攻＞

アクアバイオ学専攻博士前期課程は、オホーツク海や沿岸海跡湖における水産資源の持続的供給を可能にする海洋生態系や環境の保全を実践できる人材の育成を目標とし、旧来の水産学や環境学にはない氷結する海域に焦点をあてたオホーツク水産生物学とオホーツク水圏環境学を柱とした知識や技術を身につけ、専門性の高い指導的役割を果たせる人材の養成を目的とする。

＜食品香粧学専攻＞

食品香粧学専攻博士前期課程は、食品や香粧品の製造、品質管理について化学的視野から研究を行い、また食品、香粧品の機能について分子生物学や化学的手法を用いて研究する。これらを通して資源利用・製品開発から、保蔵、安全管理、機能解析まで、食生活と健康推進に関わる分野で活躍できる高度な研究能力を備えた人材の養成を目的とする。

＜産業経営学専攻＞

産業経営学専攻博士前期課程は、地域生物産業の発展を支える経営学・経済学の理論と先端的手法を修得し、社会科学的分野から、地域資源を活用して多様な発展を遂げつつある地域生物産業を担う企業の持続的発展と問題解決に寄与する実学に基づく研究活動を行い、産業経営学の研究者、高度な専門職業人、経営コンサルタント等の人材の養成を目的とする。

博士後期課程

＜農学研究科＞

本大学院農学研究科博士後期課程は、国内外の農学諸分野におけるフロンティアとして、見識と実力、さらに健全で調和のとれた人間性を有する研究者および高度専門技術者の人材育成を目指し、実学主義教育のもと論理的思考力と問題解決能力の獲得および向上を図り、生物資源、生命科学、環境科学、健康科学ならびに経営・経済分野の教育・研究を行うことを目的とする。

＜農学専攻＞

農学専攻博士後期課程は、環境の保全・保護を図りつつ、安全で高品質な農作物を安定的に生産・流通させる技術の確立を目指し、農作物およびそれにかかわる微生物や昆虫類に関する専門的な学理を実学的な視点から教育・研究することにより、卓越した発想・問題解決能力と強い使命感を持ち、現場で発生する種々の問題に柔軟に対応して、国際的にも活躍できる独立した研究者、教育者、専門技術者などの人材を養成することを目的とする。

＜畜産学専攻＞

畜産学専攻博士後期課程は、動物科学について、生体から分子まで様々なレベルで教育と研究を実践する。動物・畜産関連の幅広い分野の諸問題に対し、自ら考え、検証し、対応することができ、国際的にも活躍の場を広げることができる人材を養成することを目的とする。

＜バイオセラピー学専攻＞

バイオセラピー学専攻博士後期課程は、人の生活と自然環境の保全と保護が調和する社会の構築を目指す「環境農学」および動植物の利活用によって人の生活の質や心身の健康の向上と改善を目指す「福祉農学」の視点に立った教育研究を展開する。これら教育研究の目的のもと社会に潜む解決すべき課題を見出し、高度な専門知識と技術に基づいた研究によって立証し、その解決に向けた方策を社会に提言できる自立した研究者または教育者となる人材を養成する。

＜バイオサイエンス専攻＞

バイオサイエンス専攻博士後期課程は、生命科学の最先端知識・技術を駆使しながら、新規な仮説の提起と検証を通して、高度に創造的・独創的な教育研究を推進し、研究成果を国際的に発信・討論できる能力を養成する。それにより、優れた人間性を有し、国内外の大学・研究機関・企業等において研究・開発のリーダーとして貢献する人材の養成を目的とする。

＜農芸化学専攻＞

農芸化学専攻博士後期課程は、実学主義の理念を基に、人類の生活に関わる課題を食料、環境、健康の観点から農芸化学的アプローチにより解決することを研究目的としている。これら研究課題に対して、農芸化学を基盤とした高度な専門性を持ち、国際化し多様化する社会情勢の変化に柔軟かつ的確に対応できる幅広い知識と判断力を有した研究者と高度専門職業人の養成を目的とする。

＜醸造学専攻＞

醸造学専攻博士後期課程は、わが国独自の醸造技術や発酵食品の科学的探求および次世代の微生物利用産業の発展に寄与する人材の輩出を理念とし、基礎科学知識に精通し醸造学および微生物学、化学、生物工学の学問分野において自立した研究活動ならびに指導を行うことのできる研究者の養成を目的とする。

＜食品栄養学専攻＞

食品栄養学専攻博士後期課程は、食品の開発や安全性確保、医療における食事療法などの専門的な研究を行い、さらに食品学および栄養学領域において、豊富な専門知識・技術と研究能力を持った研究・産業発展の指導的立場を担える高度な専門家となる人材の養成を目的とする。

＜林学専攻＞

林学専攻博士後期課程は、地域から地球的規模にいたる森林・林業・林産業・農山村に関する高度な知識と理解力や、森林の資源生産的機能と環境保全的機能に関する総合的で高度な研究能力と管理能力を持ち、森林の保全とその多面的機能の高度利用、生物多様性の保全、循環型社会の形成に関する問題設定・解決能力および問題解決に向けてのリーダーシップを備えた人材の養成を目的とする。

＜農業工学専攻＞

農業工学専攻博士後期課程は、環境に配慮した地域資源の有効利用と循環型社会の構築を理念とし、これらを技術的に具現するために農業土木および農業機械分野の学問を基軸とした実践的な教育研究を行い、国内のみならず海外の現場での技術開発・問題解決と学術的な研究を両立できる高度な能力を持った人材の養成を目的とする。

＜造園学専攻＞

造園学専攻博士後期課程は、庭園・公園などの基本的造園空間に加え、都市から自然地域までの快適な環境を実現するための計画・デザイン思想と技術力、環境を構成する植物をはじめとした生物資源や景観計画・建設技術に関する知識と応用能力を高め、教育研究活動を通じて、豊かな地域社会と社会資本の形成に貢献できる高度な教育者、研究者、専門的技術者などの人材の養成を目的とする。

＜国際農業開発学専攻＞

国際農業開発学専攻博士後期課程は、高度な専門知識をふまえて課題を設定し、研究を企画・遂行できる人材、さらには国内外の農業開発ならびに国際協力分野でリーダーシップをもって活躍できる人材を育成することを教育目標とする。

＜農業経済学専攻＞

農業経済学専攻博士後期課程は、農業および食料、環境の諸分野において、社会科学の多面的な知識に加え、特定の専門領域に関して高度な専門知識を持ち、複雑な社会・経済情勢の中から

的確かつ体系的に情報を整理する能力と論理的思考能力を有する自立した研究者、または高度専門職業人の養成を目的とする。

＜国際バイオビジネス学専攻＞

国際バイオビジネス学専攻博士後期課程では、人類の生存に最も重要な食・農・環境にかかわるビジネス（バイオビジネス）を対象とし、国際化や技術革新、消費者志向の多様化などの変化に直面しているビジネスの実態を主として経営学の手法で分析するとともに、高度な専門知識と言語能力、主体的な研究遂行能力によって新たな理論構築に貢献できる研究者など、バイオビジネスの持続的発展に寄与する人材の養成を目的とする。

＜環境共生学専攻＞

環境共生学専攻博士後期課程は、人類をはじめとする全ての生物が、地球環境の中で均衡のとれた持続可能な共生関係を維持するための研究を推進する。自然科学、社会科学および人文科学が融合した総合科学分野での研究を行い、環境共生に関する総合的・複合的な視野を持ち高度な研究能力を有した人材の養成を目的とする。

＜生物産業学研究科＞

本大学院生物産業学研究科は、幅広い学問領域の知識を備え、高度な専門知識と能力及び創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ人材の育成を目指し、生物産業学に関する実学の精神と文理融合の教育体系に基づき、北方圏の地域性を活用した農林水産に関わる生物資源、バイオテクノロジー、経営経済分野の教育・研究を行うことを目的とする。

＜生物産業学専攻＞

生物産業学専攻博士後期課程は、博士後期課程として、前期課程に配された「生物生産学専攻」「アクアバイオ学専攻」「食品香粧学専攻」「産業経営学専攻」の4専攻を統合した文理融合型の専門教育体系を敷いている。本専攻は、生態系の保全、農水産、加工開発、経営流通のいずれかの側面を深く掘り下げつつ、包括的な観点から生物産業の実践的な学術理論・技能を身に付けた指導的人材の養成を目的とする。